

劉 征宇

平成 26 年度 文化科学研究科学生派遣事業 研究成果レポート

1. 事業実施の目的： 1) 中国の西安市での現地調査
2) 第四回目のアジア食学国際論壇での成果発表
2. 実施場所：中国・西安市
3. 実施期日：平成 26 年 11 月 3 日（月）から 11 月 10 日（月）
4. 成果報告

●事業の概要

平成 26 年 11 月 3 日から 10 日にかけて、中国の西安市において現地調査と学会発表を行った。まずは西安市における「伝統的な」地域食とその変容に対する考察を行った（11.3～11.7）。その後、第四回目の亜洲食学論壇（‘Food and Civilization on the Silk Road’ ----2014. Xi’an Asian Food Study Conference）に参加し、アジア食文化を研究対象とする世界中の研究者と学術的交流を行った（11.7～11.10）。

●現地調査について

今回の調査活動は西安市内の料理店における伝統的な地域食および社会的なイベントによって有名になったおかず（またその食法）を参与観察し、食に関する時代的・社会的な変容を考察した。具体的には：

1) 西安市の名物とする「回民街」において現地調査を行った。有名な観光地になるとともに、そこにはいくつかの変容があらわれてきた。①テレビ番組の取材を受けるため、観光者の間で非常に人気がある料理店がいくつかある。しかし、現地住民のインフォーマントはそれらの「有名」になった料理店（またその料理）を認めず、「××店の料理のほうがうまい」とすすめた。②「外来料理」の料理店がいくつかあらわれてきた。写真 1 には、三軒のイカフライの店である。揚げられたイカはほぼ同じく、普通なものであるが、それぞれ海外（「マレーシア」、「韓国」や「アルゼンチン」などの国）の大人気料理とキャンペーンされている。また、寿司やチキンフライなどの露店がある。写真 2 に示すように、韓国式のキムパプ、日本式の寿司や香港式のチキンフライをも食べられるようになっている。



写真 1 三軒のイカフライの店



写真2 「外来料理」の露店

2) 西安市の料理店において「習連套餐」¹という新しい食法を参与観察した。その料理に関する詳しい情報を把握するために、申請者はそれを提供し始めた初出店を訪問し、撮影とインタビューを行った。写真3に示すように、伝統的な地域食を代表とする「羊肉泡饃」(ヤンロウパオモー)、「Biang biang 麵」(ビャンビャンミエン、「腰帶麵」ともいう)や「肉夾饃」(ロウジャーモー)は、四つの和え物をあわせて定食として提供されている。インフォーマントによると「最初に、その定食は話題になり、とても人気があった。市内住民だけでなく、全国からの人々がうちに食べてきたため、『習連套餐専用包』という個室をも設置し、専用的に食べさせるようになった。しかし、3、4ヶ月のあとで、客がどんどんすくなくなり、人気下がってきた。そして、この専用室もキャンセルしてきた」という。



写真3 「習連套餐」

【注釈】

1. 「習連套餐」とは、2014年2月18日、共産党主席習近平は北京で国民党の名誉主席連戦を招待したこと。その宴会の料理は「羊肉泡饃」(ヤンロウパオモー、ちぎった焼きパンをラムスープに入れた料理)などの陝西地域の伝統的な食を中心としたものだった。それから西安市の料理店はそれらのおかずを民衆むきの定食として提供してはじめて(58元・約1000円)。関連する情報はページに参照：<http://www.chinanews.com/tp/hd2011/2014/02-20/308483.shtml>

●学会発表について

‘Asian Food Study International Conference’（アジア食学国際論壇）はアジア食文化を研究対象とする世界中の研究者が集まる学会であり、食文化に関する研究者と交流する場である。今回の大会は2011年から4回目であり、‘Food and Civilization on the Silk Road’を論壇テーマとして中国の陝西省の西安市で開催された。

今回の会議で、申請者は‘Ingredients, Foodstuffs and Utensils’（「食材、食物と食器」）というセッションにおいて、「海參貿易与華商網絡：清代海上糸綢之路上的飲食文化交流相關研究（ナマコ貿易と華商ネットワーク：清代海上シルクロードにおける飲食文化交流に関する研究）」という共同研究を発表しながら、中国人に「高級な」食材と見なされているナマコの食用の歴史、「海參」の名付け経緯、薬用効果に関する認識や海外品種に対する地域的な食用差異などを考察した。

従来、「シルクロードにおける食材交流」に関する研究は主に陸上シルクロードに重点をおいて、麺類、香辛料やお酒などの交流、また、各地域の食文明・文化に対する比較考察などのテーマを中心として展開されている。しかし、海上シルクロードにおける食文化交流に対する考察は少なく、不十分だと考えられている。そのため、今回の共同発表において、申請者は清代の海上シルクロードでの食材交流に重点を置いて、ナマコをめぐる食用慣習と海上貿易を考察した。さらに、学際的な視野をふまえて、ナマコの食用に関する歴史と特徴、清代中国と海外（特に日本と東南アジア）の海上貿易の概観及び華商のネットワークという三者を合わせて考察を行った。既存の食文化研究の枠組みを超えて、新たな研究視点と方法を加えて試みた点についてコメンテーターから好評を受けた。

●本事業の実施によって得られた成果

今回、西安市において調査活動と学会発表を行うことによって、いくつかの調査成果があった。

1) 西安市における住民の食生活と「伝統的な」料理店・老舗の時代的な伝承と変容に対する考察を通して、天津地域と比べながら、その地域食及び住民の食生活の独自性と普遍性を把握できた。

2) 激しい反腐敗キャンペーンの嵐を巻き起こしている現在、共産党の習近平主席の出身地とする西安市における住民の日常生活、特に食生活にどのような変容が現れるかを観察できた。さらに、その地域における政治的なイベントによって有名になったおかず（またその食法）を考察しながら、天津地域における「政治イベント」と関連があるおかずと食法を比較分析できた。

3) 学会発表において、「高級な」食材とされるナマコ及びそれに関する食用慣習と海外購入を考察しながら、中国の食に関する慣習と認識が世界にどのような影響を与えるかを考察してみた。さらに、反腐敗キャンペーンによる高級的な食材消費の急減のため、世界の食材市場はこれからどのように変容していくかをも検討した。また、学会発表によって、出席者から様々な意見と助言があり、博士論文に関する意見交換を行うことができた。

●本事業について

文化科学研究科学生派遣事業を受けて、西安市での現地調査と学会発表が順調に進んだ。さらに、博士論文の執筆と現地調査の準備にとっても、大変役に立った。とても有益な事業である。